



今こそ、 資源的に優れた 地方の時代

環境問題から雇用問題、
人として健康に生きるなど
現代社会の様々な問題を解決する「資源」は、
開発され尽くした都会ではなく、
地方にこそ埋蔵されている。

小宮山 宏(こみやまひろし)

1944年栃木県宇都宮市生まれ。東京大学大学院工学系研究科卒業。工学博士。第28代東京大学総長を経て現在、三菱総合研究所理事長、プラチナ構想ネットワーク会長。自宅の年間光熱費を8割減らしたエコハウス(通称:小宮山エコハウス)を完成させるなど省エネ生活を積極的に実践。「課題先進国」「日本再創造」など著書多数。

知事対談 小宮山宏×仁坂吉伸

三菱総合研究所 理事長

和歌山県知事

仁坂知事(以下仁坂) ●小宮山先生は現在三菱総合研究所理事長であるとともに、プラチナ構想ネットワーク会長としても活躍されています。その活動についてお話を伺いたいと思います

小宮山宏氏(以下小宮山) ●20世紀初頭、世界の平均寿命は31歳で、人類はとても短命な動物でした。その要因のひとつが栄養失調であったと言われています。しかし現在では先進国の平均寿命は78歳で、全世界の平均寿命でさえ70歳となりました。

知事 ●発展途上国の人々も餓えに困らなくなり、病気にも強くなったということなのでしょうが?

小宮山 ●もちろん世界ではまだまだ餓えに苦しむ地域もありますが、少なくとも先進国ではほぼ食べるものに困らなくなったといえます。結局平均寿命というのは、どれくらいの人が餓えに苦しむ事がなくなったかという指標といえます。そういう意味では先進国の人たちは量的に多くのモノを得、経済成長は飽和状態であるともいえます。では人類社会は今後発達しないのかというところ、そうではないと思っています。ただ単に長生きするのではなくて、自立した状況で輝かしい人生を送れるのが大切で、量的に満ちた状態から質的な高さを求めようになる。それがプラチナ社会の精神です。世界中の多くの

国々が量的充足を得、先進国となるのもそう遠くないことだと思います。日本は先進国だからこそ抱える課題にいち早く直面した課題先進国であり、だからこそ先進国の次のモデルを創らなければならぬ。それがプラチナ構想ネットワークの趣旨です。

環境問題と雇用問題を 一挙に解決する

知事 ●質的な高さを求めていくのがプラチナ構想ネットワークということですが、どこに重点をおかれていますか?

小宮山 ●一つはトータルな意味での環境です。それと健康な長寿社会、参加型の社会の構築や資源の問題とか色々あります。例えば環境面では、1960年代に日本は公害という社会問題を一応は克服しました。しかし美しい生態系を守るというレベルには到達していません。日本は国土が狭く、約65%が森林に覆われているにも関わらず、人々が親しめるような自然ではありません。さらには国内で使用する約75%の木材を輸入し、世界の森林破壊の要因になっているとも言われています。また雇用問題も重要な問題です。そこで日本の木材自給率を100%目指し林業を復活させることで、100万人近い雇用が創出される。それで環境問題と雇用

問題を同時に解決できるのでは？という議論をしています。例えば若年失業率を考えるとイタリアやスペインでは50%、ギリシャではなんと60%です。昔はほとんどの人が農業に従事し、みんなで食べ物を作りみんなで食べる。だから失業がなかったのですが、現在では技術革新が進み、200人に一人が農業に従事するだけで食糧が足りる計算になります。さらに農業に限らず様々な分野においても技術革新が進むと、極論ですが9割の人口が失業するかもしれません。ではどうするか？という点、さらに高機能なモノ、だとか、非常に高度なサービスなどの開発が必要となってきます。逆にそれを生まない、先進国は持たないと思っています。まさしくそれは人のクオリティ・オブ・ライフを上げていくという事と同じです。

知事 ●小宮山先生の「課題先進国」日本を讀ませて頂いて、私は「課題先進県和歌山」と言っています。飛行機に乗り和歌山県を上から眺めると、緑は深く美しく、まるでドイツのシュバルツバルトのようですが、実際に人工林に足を踏み入れると残念な気持ちになります。戦後、和歌山県では林業が盛んになり広範囲に渡り植林が進み、原生林がなくなりました。しかし今ではその林業が衰退したことで、間伐さえされていない人工林だけが残されています。先生が提案する林業の再生

知事対談

小宮山宏 × 仁坂吉伸

三菱総合研究所 理事長 和歌山県知事



は和歌山にとって必須の課題だと思っています。

人が人と関わりを持つ事で健康になるともいえる

小宮山 ●今は、「勿体ない精神」が非常に発達していますが、これからは少し考え方を変えた方がいいと思います。エネルギーとか物に対して勿体ないというのは極めて重要な感覚ですが、必要な部分でさえお金を使わないという風潮が蔓延しているようにも思います。人間というのは社会的動物なので、孤立するとどんどん病んでしまいます。さらには高齢化社会が進み、独居世帯が増えると言われています。だからこそ仲間同士で交流する場や、誘い合わせて買物に出かけるなど、意識的に多くの人と交流を持ち、どんな外へ出て行く機会などを増やした方がいいと考えています。それが幸せな長寿社会のための必要条件だと思います。

知事 ●まったく同感です。そういう意味でも和歌山は、他県より高齢化が進み独居も多い課題先進県です。しかし地方であるがゆえ人間関係が緻密で、その分救われている部分もあります。さらに和歌山県では、民生委員や仕事上家々を訪問する民間の力を借りた独居世帯を見守るような施策も行っています。また交流そのものも観光化しています。そのひとつ

国際化の時代に どのように対応するのか

い人情味こそ重要な資源です。

知事 ●グローバル化の時代ですが、プラチナ構想ではどのようにお考えですか？

小宮山 ●国際化への対応は重要な課題で、なかでも教育現場での対応は是非とも実現したいと思っています。

知事 ●具体的にはどのような方策なのでしょうか？

小宮山 ●フルタイムでなくていいから、社会経験者を学校へ派遣するシステムです。いじめ問題やクレーム処理に精通した社会経験者、そしてもっとも重要なのが海外経験者です。英語の補助教員というのだけでなく海外での経験を元にした広い視野を持っている高齢者の方など最適ですね。そういうそれぞれの分野の社会経験者をひとつの学校に5人ぐらい配置できればいいなあと考えています。

知事 ●それはいいですね。そうする事で高齢者の方々は誇りを持って社会と繋がりをもち、さらには教員だけでは対処しきれない問題を解決できる。一石二鳥ですね。実は和歌山県でも同じようなことをやりたいと思っていました。県でも現在、国際化教育を進めており、私は「英語を勉強する」ではなく「英語で勉強する」と言っています。



は都会の人に田舎の良さを味わっていたり体験型観光です。これは年間約30万人を集客しています。具体的には、果物の収穫やホエールウォッチング、カヌーや藍染め、紀州備長炭の炭焼き体験などです。また田舎暮らし交流プロジェクトも積極的に進めています。和歌山県民の特色は、あまり他所から移住して来た人を排除しない事です。これは本県に和歌山県民のいい点で、さらにこの移住してきたIターン先輩たちが地元住民と一緒に協賛会や窓口を作り、後から来る人たちの面倒見、またその後輩たちは新しい協議会のメンバーになっていく。まさしくサステイナブルな社会だと思っています。

小宮山 ●それは素晴らしいですね。温かす。英語そのものの勉強は面白くないかもしれないけど、社会に出て「何かをする時の道具」として使うものと考えれば面白いかもしれないと思っています。

小宮山 ●ところで国際化といえば、果実なんかは和歌山の得意分野ではないのですか？特にみかんや梅、桃など特産品は高い評価を得ていますよね。私の外国人の友人も、日本の果実は安全で美味しいのでお土産に買って帰りたいと言っています。

知事 ●和歌山の農産物の美味しさと安全については特に自信があります。それは和歌山農産物安全プラスというシステムです。まず農家の方が生産段階で残留農薬についてチェックをし、さらに県と農協が共同して出荷段階で再チェックを行い、基準値に適合しない産物が検出されると全数引き取る。そういう体制をとっています。

小宮山 ●それはすごく良いシステムですね。だからこそ和歌山産の野菜や果物など農産物は美味しいと評判なのです。農産物の美味しさや環境の良さ、人々との温かい関係。それらを考えると地方にはプラチナ構想に適した資源がたくさんあります。そういう意味でもこれからは地方の時代だと思います。

知事 ●課題解決、先進県和歌山を目指し、これからも取り組んでいきたいと考えています。本日はお忙しい中、ありがとうございました。



旅の原点、 和歌山

観光のはじまり